

HDS004-20

会場:103

時間:5月27日 17:15-17:30

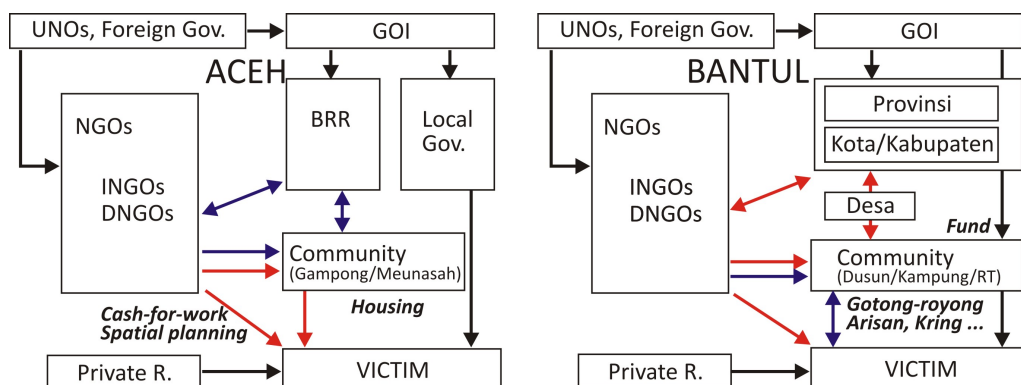
インドネシアのアチェおよびジョグジャカルタにおける災害復興に対するコミュニティ機能の比較検討

Comparing community functions for the post-disaster reconstruction in Aceh and Yogyakarta Regions of Indonesia

高橋 誠^{1*}, 田中重好¹, ジャティ・マルディアトノ², デニー・ヒダヤティ³, イルファン・ジックリ⁴
Makoto Takahashi^{1*}, Shigeyoshi Tanaka¹, Djati Mardiatno², Deny Hidayati³, Irfan Zikri⁴

¹名古屋大学大学院環境学研究科, ²ガジャマダ大学地理学部, ³インドネシア科学院, ⁴シアクラ大学農学部
¹Nagoya University, ²Gadjah Mada University, ³Indonesian Institute of Sciences, ⁴Syah Kuala University

この報告では、アチェおよびジョグジャカルタの事例の比較研究を通して、開発途上国、特にインドネシアの文脈において、災害復興に対してコミュニティがどのような役割をどのように演じるかということについて議論する。主なデータソースは、2010年8月にアチェ州バンダアチェおよびアチェベサールの200ガンボンと、2010年12月にジョグジャカルタ州パントウールの161ドゥスンをそれぞれ対象に行った質問紙調査である。インドネシア政府は、それぞれ両地域における2004年インド洋大津波と2006年ジャワ島中部地震からの復興事業の完了を宣言した。しかし、長期復興過程においてどのような問題が生じ、各主体がどれにどのように対処してきたかということに関する議論はまだ十分ではない。例えば、私たちの住宅復興に関する予察的調査によれば、両地域間にはとりわけ援助の流れに大きな違いがあり(上図)、地域コミュニティの役割や政府との関係についても異なっている。多くの開発途上地域においては、災害対応、復旧、復興、備えの活動に際して、政府の機能に限界がある。それに代わって、コミュニティや親族などを基盤とした社会関係資本ないし社会的ネットワークがますます強調されるようになっており、そうした非公式のメカニズムを政府部門に適切に組み入れることがいよいよ重要である。ここでは、コミュニティに立脚した、あるいは草の根の災害対応にとってどのような社会的・地理的条件があるのかということについて、それらの両地域におけるハザードの種類や規模、地元の社会構造の相違に注目し、質問紙調査の結果を分析することによって議論する。



キーワード: コミュニティ機能, 災害復興, 草の根の災害対応, 社会関係資本, インド洋大津波, ジャワ島中部地震

Keywords: community function, post-disaster reconstruction, grassroots disaster management, social capital, Indian Ocean Tsunami, Java Earthquake